

南アフリカ為替週報

2022年5月19日 | みずほ銀行欧州資金部

<過去1週間の動き>

(5月12日～5月18日)

USD/ZAR: 15.8850～16.3225

ZAR/JPY: 7.88～8.14 (参照値)

過去1週間の南ア・ランド相場は、過去1週間の南ア・ランド相場は、方向感に乏しい上下動の先行から、17日以降、一段水準を切り上げ。週を振り返って、対ドルでは若干上振れたものの、対円では、18日に下押しを見て、逆に小幅水準を切り下げた。この間、南ア固有の要因で目を引いたのは、19日の南ア準備銀金融政策委員会を前に、大幅利上げ(+50b.p.)を見込む声が強まったこと。ただ、この間、そうした声が目立つようになったのは、単純に、19日が近づいたタイミングの影響が大きかったようだ。金利先渡(FRA)市場の推移を見る限り、大幅利上げの織り込みは4月後半から徐々に進んできており(+25b.p.の織り込み→+50b.p.の織り込み)、必ずしもここにきて急速に進んだわけではなかった。大幅利上げ予想の根拠としては、①前回(3月24日)金融政策委員会の決定(+25b.p.)が3対2の僅差で、2票は+50b.p.に投じられていたこと ②前回同委員会以降、現在までに10%前後のランド安(輸入物価押し上げ要因)が進んだこと ③世界的な燃料・穀物価格の高止まりに加え、④米連銀の大幅利上げ(利上げ前倒し)予想の強まりなどが挙げられた。12日のランド安については、世界的な株安などを受けた円全面高と、ランド/円の下落をけん引力とした値動きと考えられた。その他の細かい上下動の背景のいちいちにもっともな要因を見つけることはできなかったが、16日以降のランド堅調推移の背景に、上述南ア準備銀大幅利上げ予想が寄与していた可能性は考えられた。

<過去1週間に発表された主要経済指標等>

月日	GMT	指標	期間	発表	予想*	前回
5/12	9:30	鉱業生産(前年比)	3月	-9.3%	-1.4%	-5.8%
	11:00	製造業生産(前年比)	3月	-0.8%	+0.7%	+0.7%
5/18	8:00	CPI(前年比)	4月	+5.9%	+5.9%	+5.9%
	11:00	小売売上高(前年比)	3月	+1.3%	+1.5%	-0.9%

(*予想はブルームバーグ社予想中心値)

<向こう1週間の見通し>

(5月19日～5月25日)

USD/ZAR: 15.900～16.300

ZAR/JPY: 7.90～8.15

向こう1週間の南ア・ランド相場は、19日の南ア準備銀金融政策委員会の決定次第。上述の通り、市場のコンセンサスは+50b.p.でまとまっていることから、仮に、利上げ幅が+25b.p.にとどまった場合には、相応のランド下落余地を見込むことになる。ただし、市場の一部には+25b.p.を見込む向きも相応にあることから、仮に+25b.p.にとどまったとしても、「晴天のへきれき」という程のサプライズにはならないだろう。予想が割れているということは、+50b.p.決定に、逆に、いくばくかのランド上昇余地が見いだせる可能性も示唆する。上述①～④は、確かに+50b.p.予想の十分な根拠になるかもしれないが、一方で、⑤南ア経済指標は南ア経済の低空飛行継続を示唆している ⑥直近(4月)物価は南ア準備銀誘導目標(+3～6%)範囲内にあり、目先は上振れ=+6%突破が見込まれるものの、7月以降はベース効果による減速が見込まれる ⑦物価上昇は国際市場における燃料価格上昇など外的要因が主因で、コアCPIは落ち着いた水準(4月は前年比+3.9%)にとどまる ⑧足元2ヵ月弱を振り返れば、確かにランド安は進んだものの、直近2年余りを振り返れば、年明け以降のランド高の方が例外的で、足元水準が特段ランド安水準とも言えないなどといった要因の他に、⑨株式市場全般の値動きなどに、世界景気減速懸念が読み取れる ⑩他国の中銀(注1)が積極的に利上げをするからといって、それに合わせて南ア準備銀が利上げを急ぐ必然性はないなどといった(大幅)利上げを踏みとどまる要因も挙げられる。テクニカルには、対ドルで、直近安値(昨年11月の16.3675)や2020年4月の安値(19.3590)から昨年6月の高値(13.4150)の半値戻し(16.3870)水準が射程に入っていることから、仮に+50b.p.利上げが見送られた場合には、そうした水準を意識した値動き(注2)を見込むことになる。

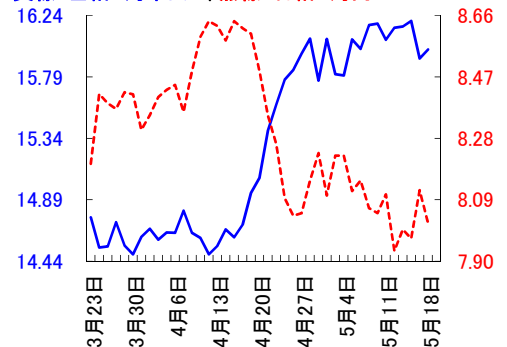
<向こう1週間に発表予定の主要経済指標等>

月日	GMT	指標	期間	発表	予想*	前回
5/19		南ア準備銀政策金利			4.75%	4.25%

(*予想はブルームバーグ社予想中心値)

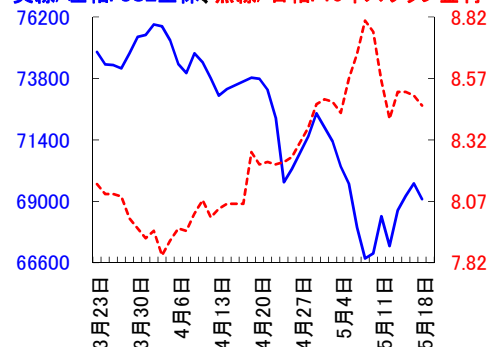
為替相場の推移(資料: ロイター)

実線/左軸: 対米ドル、点線/右軸: 対円



株式/長期金利の推移(資料: ブルームバーグ)

実線/左軸: JSE全株、点線/右軸: 10年スワップ金利



南アフリカ関係主要経済指標

政策金利(レボ金利)		4.25%
長期金利(10年スワップ)	5月18日	8.460%
株価指数(JSE全株)	5月18日	69083.44
成長率(GDP/前年比)	Q4	+1.7%
経常収支(ZAR)	Q4	+120bn
失業率	Q4	35.3%
消費者物価(前年比)	4月	+5.9%
小売売上高(前年比)	3月	+1.3%
製造業生産(前年比)	3月	-0.8%
鉱業生産(前年比)	3月	-9.3%
貿易収支(ZAR)	3月	+45.9bn
金価格(ロンドン17:00)	5月18日	1823.57

(注1) 特に意識しているのは米連銀であろう

(注2) 一連の水準を割り込むまでは下値支持線として意識され、一旦明確に割り込んでしまえばランド続落を促す水準として意識されるのではない

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。